

☆王であるキリスト(11月22日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (エゼキエルの預言 34章 11~12, 15~17節)

まことに、主なる神はこう言われる。

見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、彼らの世話をする。牧者が、自分の羊がちりぢりになっているときに、その群れを探すように、わたしは自分の羊を探す。

わたしは雲と密雲の日に散らされた群れを、すべての場所から救い出す。わたしがわたしの群れを養い、憩わせる、と主なる神は言われる。

わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う。

お前たち、わたしの群れよ。主なる神はこう言われる。わたしは羊と羊、雄羊と雄山羊との間を裁く。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 I 15章 20~28節)

皆さん、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂とされました。死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配されることになっているからです。最後の敵として、死が滅ぼされます。すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。

福音朗読 (マタイによる福音書 25章 31～46節)

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。

そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のために見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』

すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』

そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず、旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のために、訪ねてくれなかったからだ。』

すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』

そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

信徒の皆様お元気でいらっしゃいますか。新型コロナ感染症もいよいよ第三波の到来のようですね。お体大事になさってください。

さて、今日は典礼歴の最終日曜日「王であるキリストの祭日」です。典礼歴の年間には私たちの一生と神の救いの歴史の出会いの歴史を現わしています。キリストが私たちをその喜びの国に招かれ、私たちが王であるキリストの国に住まうこと、キリストとともに顔と顔を合わせて見る喜びに至ることを望むことを現わしています。「この世においては誰一人自分の望みを充足することはできず、人間の望みを満たすことができるのは神のみである。」(T.アウグスティヌスの使徒信経講解) アウグスチヌスは「主よ、あなたは私たちをご自分に向けてお造りになりました。ですから私たちの心は、あなたのうちに憩うまで、安らぎを得ることができないのです」(告白録)と言っています。神の招きによって私たちは今があります。これからも神の国で主であるキリスト、王であるキリストとともに憩う日まで私たちを導き守ってくださるよう祈りましょう。

第一朗読 (エゼキエルの預言 34章 11~12, 15~17節)

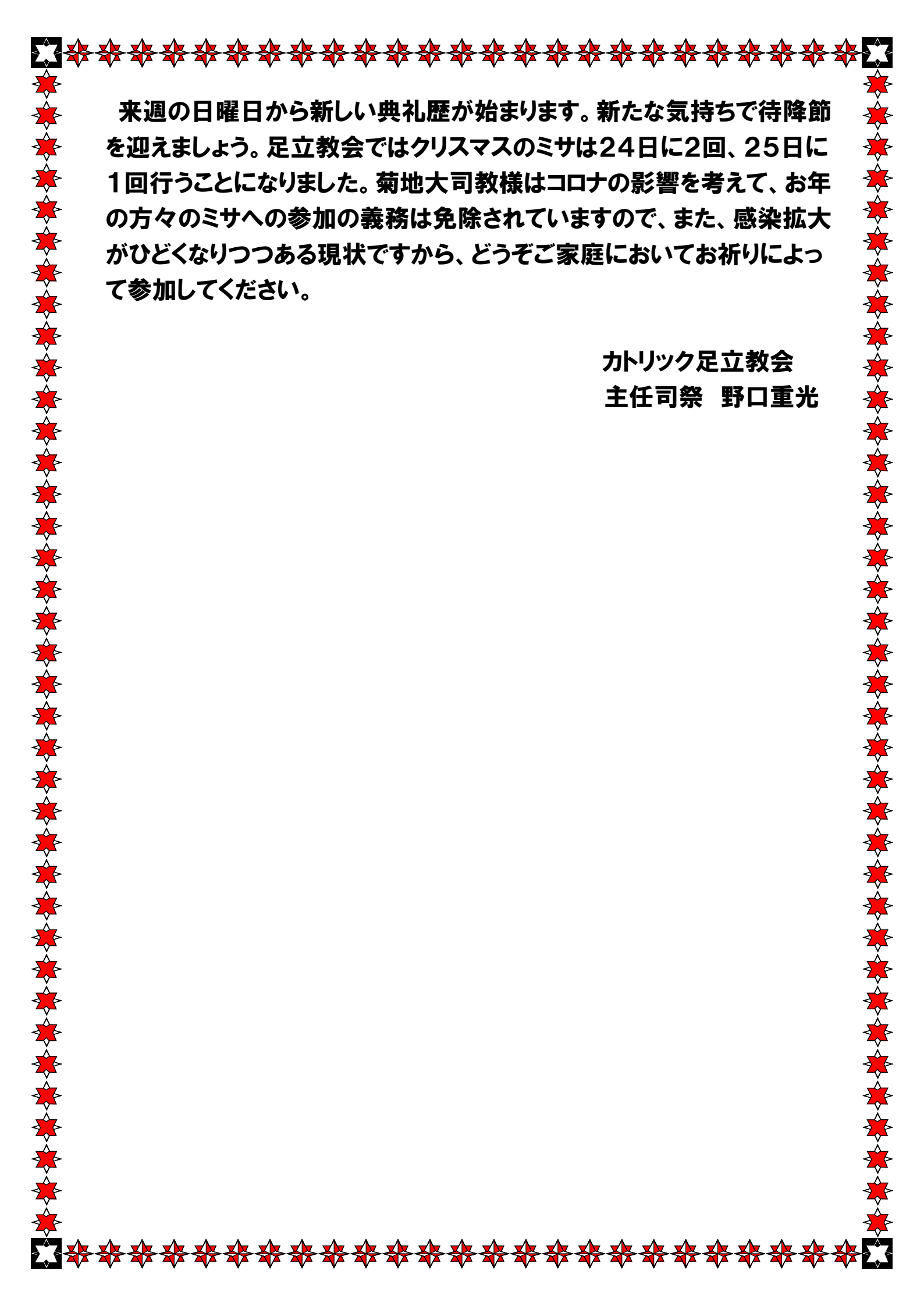
エゼキエル預言者は神を羊の牧者として表し、それも善き牧者として、散り散りになった羊の群れを探し、救い出し、養い憩わせる牧者、失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くするものとして表現しています。また私たちの世界では公平な裁きは望むべくもありませんが、この牧者である神は公平に裁きを行われる、とエゼキエル預言者は語っています。この神に全幅の信頼を置くことこそ私たちの平和であるということです。第一朗読に続く答唱詩編はそのことを歌っています。「主はわれらの牧者、私は乏しいことがない」と。

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 I 15 章 20～28 節）

キリストの復活は私たちの復活につながりますとパウロは言います。罪の結果である死に打ち勝つのは復活であるからです。復活は私たちが生かされることです。罪に死んでいた私たちがキリストの贖いによって、キリストの復活によって新たな命を得て生きることだからです。そうすることによってキリストは私たちを御父にお返しになるのですとパウロは言います。父である神こそ物事の始まりであり、また物事の最終目的であるからですそしてその物事の最終目的は私たちが御父の懐において永遠に憩うことなのです。

福音朗読（マタイによる福音書 25 章 31～46 節）

福音では最後の審判の様子が描かれています。ヴァチカンのシスティナ聖堂の壁面のフレスコ画の絵が有名ですが、これを描いたのがミケランジェロです。キリストの右に羊たち、すなわちキリストから「私の父に祝福された人たち」と呼ばれた人たちです。彼らはキリストを知らず知らずのうちにもてなした人たちでした。つまり人々の間におられるキリストを愛し大事にした人たちでした。イエスも当時のユダヤの社会においてそのようにふるまっておられたのです。ということは私たちが父の国に入るにはキリストが行われたように私たちが出会う人々に行くことなのですね。でも言うに易しく行い難しですね。キリストを信じていると言葉では言えますが、キリストが行われたようにすることは本当に難しいことだと思います。人が見ているからする。人が見ていなければ、こんなことやってられないと。でも私たちには見習うべき人たちがたくさんいます。たとえば、聖人や殉教者たち。それ以外にも、キリストを知らない人でもキリストの望みを行っている実に多くの人たちが私たちの周りにもいるのです。キリストは王としてすべての人を救いたいと望んでおられます。キリストは善き牧者だからです。



来週の日曜日から新しい典礼歴が始まります。新たな気持ちで待降節を迎えましょう。足立教会ではクリスマスのミサは24日に2回、25日に1回行うことになりました。菊地大司教様はコロナの影響を考えて、お年の方々のミサへの参加の義務は免除されていますので、また、感染拡大がひどくなりつつある現状ですから、どうぞご家庭においてお祈りによって参加してください。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光